

固定性義歯補綴学

責任者名：小峰 太（歯科補綴学Ⅲ 教授）

学期：後期

対象学年：4年

授業形式等：講義

◆担当教員

小峰 太(歯科補綴学Ⅲ 教授)

本田 順一(歯科補綴学Ⅲ 助教)

窪地 慶(歯科補綴学Ⅲ 助教)

高田 宏起(歯科補綴学Ⅲ 助教)

木谷 仁(歯科補綴学Ⅲ 助教)

◆一般目標（GIO）

歯科医師になるために必要なブリッジを含む固定性義歯補綴学の概要を理解し、歯科補綴学用語の基礎知識を習得する。また、臨床実習を円滑に実施するために、支台装置の種類、クラウンとブリッジの相違、固定性補綴装置による治療の流れなどを理解する。

◆到達目標（SBOs）

ブリッジを含む固定性義歯補綴学の概要を述べることができる。

歯科補綴学用語の基礎知識を解釈できる。

支台装置の種類、クラウンとブリッジの相違を説明できる。

固定性補綴装置による治療の流れを具体的に述べることができる。

口腔インプラント支台装置による補綴処置の流れを説明できる。

◆評価方法

定期試験結果（50%）、平常試験①（11月4日、土曜日）および平常試験②（12月16日、土曜日）の成績（40%）、レポートおよび提出物（10%）で評価する。なお、平常試験に関する内容を講義時間内に学生にフィードバックする。公欠以外の欠席は減点する。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
小峰 太	金曜日 17:15～18:15 歯科補綴学第Ⅲ講座研究室	komine.futoshi@nihon-u.ac.jp	
本田 順一	金曜日 17:15～18:15 歯科補綴学第Ⅲ講座研究室	honda.junichi@nihon-u.ac.jp	
窪地 慶	金曜日 17:15～18:15 歯科補綴学第Ⅲ講座研究室	kubochi.kei@nihon-u.ac.jp	
高田 宏起	金曜日 17:15～18:15	takata.hiroki@nihon-u.ac.jp	

	歯科補綴学第 III 講座研究室		
木谷 仁	金曜日 17:15~18:15 歯科補綴学第 III 講座研究室	kitani.jin@nihon-u.ac.jp	

◆授業の方法

授業に際して、授業内容をまとめた資料を配付する。学期内に 2 回の平常試験を行う。

【実務経験】小峰 太，本田順一，窪地 慶，高田宏起，木谷 仁：日本大学歯学部付属歯科病院クラウン・ブリッジ科で臨床診療を実施している立場から，本教科で学修する知識や臨床術式が実際の臨床でどのように活かされるかについて説明を加える。

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書	冠橋義歯補綴学テキスト (第 4 版)	石神 元，松村英 雄，小峰 太，ほか	永末書店	2021
プリント配付				

◆DP・CP

コンピテンス 3：リサーチマインド

コンピテンシー：3-3, 3-4

対応するディプロマ・ポリシー：DP3

コンピテンス 4：歯科医学および関連領域の知識

コンピテンシー：4-5, 4-6, 4-10

対応するディプロマ・ポリシー：DP4

コンピテンス 5：医療の実践

コンピテンシー：5-2, 5-3, 5-4, 5-5, 5-8, 5-9, 5-10

対応するディプロマ・ポリシー：DP5

◆準備学習(予習・復習)

教科書による予習を行い，当日の学修到達目標を理解すること。

授業中は，配付プリント，ノート等に必要事項を記載し，自身の学修に必要なノートを作成すること。

作成したノートをもとに復習を行うこと。

各々授業時間相当を充てて予習と復習を行うこと。

◆準備学習時間

授業時間（50 分）相当を予習（50 分）および復習（50 分）に充てること。

◆全学年を通しての関連教科

歯冠補綴学（3年後期）

歯冠補綴学実習（3年後期）

架橋義歯補綴学（4年前期）

架橋義歯補綴学実習（4年前期）

顎機能分析演習（4年後期）

専門統合特別講義Ⅲ（4年後期）

臨床実習（5年通年）

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		9.15	1	口腔内情報の記録, 固定性暫間補綴装置 (教) pp.139-142, pp.163-168	・色調選択, 伝達, 歯の位置, 形態の記録, 口腔内写真撮影について説明できる。 ・固定性補綴のための暫間補綴について説明できる。	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
2		9.22	1	ブリッジの設計とワックスパターン形成 (教) pp.143-146	・ブリッジワックスパターン形成の方法論, 作業工程について説明できる。	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
3		9.29	1	ブリッジの鋳造, 連結法 (教) pp.146-156	・ブリッジの鋳造工程, 連結の必要性, 方法, 作業, 器具操作法について説明できる。	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
4		10.13	1	試適, 咬合調整, 仮着 (教) pp.159-162	・ブリッジの試適, 咬合調整, 仮着について, クラウンとブリッジの違いを説明できる。	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
5		10.20	1	固定性補綴の術後管理 (教) pp.229-234 磁性アタッチメントを用いた支台装置 (教) pp.181-184	・固定性補綴装置装着後の管理の必要性, 意義, 予後, 経過観察の方法論などについて説明できる。 ・磁性アタッチメントの特徴と臨床応用について説明できる。	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療

6		10.27	1	<p>歯周病と固定性補綴処置 (教) pp.213-219</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周病患者の支台歯形態およびプロビジョナルレストレーションの特徴について説明できる。 ・歯周組織に調和した固定性補綴装置の特徴を説明できる。 	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
7		11.4	4	<p>平常試験①およびフィードバック (121 講義室, 122 講義室) *土曜日(11月4日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平常試験①を行い, 第1~6回の講義内容の理解度を確認する。 ・平常試験①のフィードバックを行い, 第1~6回の講義内容の理解度を確認できる。 	小峰 太 本田 順一 窪地 慶 高田 宏起 木谷 仁	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
8		11.10	1	<p>CAD/CAMによる歯冠色補綴処置 (教) pp.203-212</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CAD/CAM製コンポジットレジンとセラミックスによる補綴装置について説明できる。 ・光学印象の術式を説明できる。 	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
9		11.17	1	<p>オールセラミック修復 (教) pp.185-192</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オールセラミック修復のシステムと技法について説明できる。 	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
10		11.24	1	<p>セラミック製補綴装置 (教) pp.185-192</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セラミック製補綴装置のシステムと技法について説明できる。 	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
11		12.1	1	<p>口腔インプラント支台装置による補綴処置(1) (教) pp.249-264</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔インプラントの意義, 構造, 選択基準, 治療の流れを説明できる。 	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
12		12.8	1	<p>口腔インプラント支台装置による補綴処置(2) (教) pp.249-264</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔インプラントによる補綴処置について説明できる。 	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療

13		12.15	1	顎機能障害患者と クラウンブリッジ (教) pp.235-241	<ul style="list-style-type: none"> ・顎関節に障害を持つ患者に対するクラウンとブリッジの処置について説明できる。 	本田 順一	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
14		12.16	4	平常試験②および フィードバック (131 講義室, 132 講義室) *土曜日(12月16日)	<ul style="list-style-type: none"> ・平常試験②を行い, 第1~13回の講義内容の理解度を確認する。 ・平常試験②のフィードバックを行い, 第1~13回の講義内容の理解度を確認できる。 	小峰 太 本田 順一 窪地 慶 高田 宏起 木谷 仁	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
15		1.12	1	接着ブリッジ, コ ンポジットレジ ンブリッジ (教) pp.169- 176, 200-202	<ul style="list-style-type: none"> ・接着ブリッジの理論と実際について説明できる。 ・装着材料の種類, 接着の術式について説明できる。 ・コンポジットレジンブリッジの構造と適応について説明できる。 	窪地 慶	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療

